

# Hermann Kant の „Kormoran“ を巡って

酒 井 府

(V)

Änne がしかし、財政上及び医学上の理由から非常に無意味であるし、高価で無い物と言う約束にも反する等の理由で拒否の意向を示し、Grit Schlu-  
ziak、Herbert Henkler が口を挟むが Änne は好奇心と知識欲でテラスから  
電話の所へ急ぐのか、ポケットから携帯を取り出すのかはやはり血液循環に相  
違をもたらずと異議の理由を挙げる。一方 Ilse は彼の疑心が彼の行動を生む  
と言い、嘗て Kormoran が非合法に手に入れた探知用レーダーをテストしよ  
うと一日中街を走り回ったが、人民警察が別の周波数を使用していたので役立  
たず、ひどく不機嫌になった話をし、それが彼女の夫 Herbert との人民警察  
を巡る話に転ずる。彼女は人民による、人民と共に、人民の為の人民警察、貴  
男の互いに協力する同志と皮肉を述べ、私達の編集長によれば Stasi ではなく、  
国家の委員であったと語る誰の場合も Stasi に巻き込まれていた事が推測され  
るし、その者は時代遅れの人間であると語る。夫婦間の齟齬と DDR 時代の  
政権関係者への統一後の身内からの批判が見られる。夫はそれに対し、法律家  
の規則によれば刑罰に値した物は刑罰に値するし、その上当地では厳しく禁止  
されているので Kormoran をレーダー法違反で現在、告訴出来ると反駁する。  
しかし Ilse はそのテーマにそれ以上深入りせず、Änne に彼女の贈り物は健  
康を害する物ではないと主張し、その有用性を述べ、ドアの所に現れた  
Kormoran に貴男は申し出を吟味せずにはおかないでしょうと訴える。彼は  
彼女を満足して眺め、彼は批評家として慎重であると、格言を引用して述べ、  
他の者が口を挟む前に、ハンブルクの新聞に載る記事はともかくとして、今日  
という日の為に何を彼に持ってきたのか尋ねる。その格言の口調が彼が Ilse と

Änne と共に観た „Lotte-in-Weimar“ の映画化に於ける枢密顧問官の口調に似ていた事を Ilse が指摘し、話題は彼のその当時の批評が引き起こした騒動に転ずる。Kant の作品にしばしば見られる手法である。彼はその騒動が現在の東西遭遇の先取りであったと述べ、Änne が好まぬ、話してならぬタブーかと思うが、周囲に勧められて話す。

その映画の主演男優は東ドイツ側で、主演女優は西ドイツ側であり、彼女がワイマルのホテル「エレファント」(Elephant) に泊まった時、東ドイツのホテルでの接触恐怖症からポータブルの便器を持ってきた事を彼が怒りの気持ちで込めて書いたが、結局その記事が印刷されず、彼の更なる怒りを生んだのである。記事が採用されなかった理由は、他国の芸術家との不必要な対立は避けるべきだと云うものであり、それに対し、彼等は国内の芸術との対立に多分、全力を出し尽くしたのだらうと言う彼のコメントの故に彼は指導的地位の人に謁見する事になり、宥められる羽目になった。そこでの結論は多分ただ正しかったのだらうと、彼は静かな激しさで語る。当時の DDR 文化政策への批判である。Ilse は決して正しくはないと憤慨し、その結果、日を追う毎に、月曜が来る度毎に、最も恐るべき出来事が始まったと述べ、Kormoran も同意する。デモ等による DDR 崩壊の始まりであろう。

一方 Änne も彼の意見に同意するが、Ilse に向かい、例のニュースはお前が居なくとも彼女等に届くであろうと述べ、彼の誕生日に話を戻し、子供への電車の贈り物に話を喩えて、非常に好都合な掘り出し物だと彼に云って贈り物をすれば良いと皮肉を云う。更に Ilse に思い止まらせようと画策する。誕生日と云う特別な日とは言え、Kormoran は Änne の懇願する様な助言を聞き逃さず、Ilse に対し彼女の厳しい姉の巨大な認可権に触れる。そこから語の綴り替えを競うスクラブルの様な言葉のゲームが、彼の誕生日を巡ってウェランダの上で続く。彼が六十六歳を迎えた事、技術のお陰で手術後二年を迎えた事等である。

続けて、敬意を表せられたセレモニーには参加し、当事者達と杯を交わし、談笑しながら、その前後にその当事者達を茶化してきた Kormoran の姿勢に

不満であった Änne の考えとそれに対する彼の説明が描かれる。彼にとっては茶化してきた嘗ての DDR の指導者達の方が彼の事を良く知らない統一後の西側の指導者達よりましであったのだ。(此处にも作者 Kant の姿勢が見られる。)しかし今の彼の誕生日を巡る談笑は Änne には納得が行くものであり、Ilse の贈り物の過剰な包装を巡ってのやりとりが続き、包装を解いた彼はコードレスの電話機を喜ぶ。その電話機を巡って、次の電話の際には彼の誕生日への賛辞を皆で聞けるとか、秘密に関わる電話の際には電話機を口にくわえて高い木に登れるとか、彼の人工弁が危機に瀕した時にはボタンを押すだけで Felix Hassel 教授が電子による救命具を投げてくれるとか、低迷している人生の質に大量の長生きの質が加わるとか、Kormoran、つまり作者 Kant 特有の台詞が聞けるのである。しかしまた家の中で電話が鳴り、Änne がドアの側、数歩の所に近づいた時、Ilse は彼に、何時から大量の負担を軽くする事物が彼等の日々の生活を変えたか知っているでしょうと問いかける。統一後の東ドイツ社会の西ドイツ化の現実である。

話題は人生の質と云う彼の言葉をきっかけに、彼が若い頃、色あせた言葉を嫌い、三十歳で物怖じしない記事を書いた事、人生の質とは Herbert Henkler によると社会民主主義者の言葉であった事、その言葉を当時の主要な敵 Willy Brandt が口にした事等に及ぶ。更に Henkler は Brandt の当時の演説を真似、Bilchel 夫人が口を挟み、Grit Schluziak は夫に、Herbert Henkler は Brandt の Guillaume 事件(筆者注: Brandt 側近 Guillaume が DDR のスパイとされた事件)への対応が許せないのだと説明する。Horst Schluziak も同意し、相互の信頼があらゆる関係の基礎になれば、仕事に於いてどうしたら良いのかと語り、商取引でも大臣相互間でもそうなのだと Henkler も述べ、Kormoran は「それ以上だ、世界情勢へのあらゆる視点が教えているように、人間社会の一般的業務原則なのだ。」<sup>22)</sup> と付け加える。Guillaume 事件への DDR の見解であろうが、此处にも Kant と云う作家への「私は此の男に不安を抱いている。此の男は今日でも危険である。それ故、人々は注意せねばならぬ !」<sup>23)</sup> と云う西側の立場に立った批判が読み取れて興味深い。

続いて、電話より長い間、戻って来ない Anne の事、新しい電話機の操作とそれが既に使用可能かどうかを巡ってベランダで話が進行し、郵便業務関係の許可云々を Schluziak が主張し、嘗ての地位に拘らない Henkler が自分の事を板金工の中佐と云った事から盗聴器設置が大事件になった Watergate 事件に迄、話が及ぶ。しかしあの事件と違って誰も彼を逮捕しなかったと、彼は主張し、郵便業務に関しては正当だと述べ、西のテレビでも東のテレビでも通関業務協定の際に郵便業務制服姿の彼が見られたと主張する。話の飛躍は Kant の作品には共通している。Schluziak はその回想記執筆を Henkler に勧めるが、Kormoran はコードレス電話機の使用法を問題にする。Henkler は説明するけど、私を信用するかと問い、Kormoran が私は絶望的だが君は弁えていると答えた事で、Birchel 婦人が慰めがてら、誰もが板金工ではあり得ないし、彼女の孫娘の様に实际的ではないと口を挟み、その孫娘が Kormoran の鐵製人工弁の話聞いて、彼の妻は大きな磁石で彼を決定的かつ痕跡もなく黙らせる事が出来る。完全犯罪だわ。と云った事を紹介し、話は思わぬ方向に一旦展開する。此处にも Kant 特有の話の転換が見られ、その様な発想はテレビで観られるバットマン、スーパーマンのせいだと Henkler は言い、Schluziak 夫妻は全てを新しい状況のせいにすべきでないと述べ、Grit は此の場合は多分、DDR の統合技術学校教育の後からの効果であるとい、彼女の夫は心の教育としての人民教育をと語る。旧 DDR 市民の統一直後の状況評価に関する見解の相違である。

しかし、Kormoran は二者択一の考えを避ける様に言い、いらだちを逃れる為に、子供らしい口調で Birchel 婦人に孫娘に警告への感謝の念を伝えて欲しいと云い、Hassel 教授に彼に磁力がある (magnetisch) か尋ねてみると述べる。此の言葉を人の心を引き付ける力(筆者注: ドイツ語の magnetisch には両方の意味がある。)と取って Grit は彼には魅力があったし、彼女にとって何時までもそうであったと述べる。それに対し Henkler も Schluziak も自分等はそう云われた事がないと云い、Ilse も彼等は生涯そう云われまいと同意し、自己をそれ程評価しない Kormoran は皆に会釈し、淑女達に恥じらいの感謝

の念を示す。Kant のストーリー展開の巧みさでもある。

そこで Kormoran はその電話機を振り、彼への賞賛はさておき、現実の魅力の証人達になって欲しいと皆に要請する。つまり、次に呼び出し音が鳴ったら、此の魔法の機械はテラスの皆によって厳かに使い初めを祝われる、と云うのである。勿論、多分いま長電話で誰かに聖書を読み上げている彼の妻 Änne の参加を前提に、更に義弟の郵便業務関係者 Herbert Henkler が受信の技術的前提を仕上げた事を前提にして、と彼は Ilse に云う。その後、電話機の説明書を巡ってやりとりがあり、Änne がやっと戻ってきて Kormoran に親戚 Ruth からの電話で、彼女は所用の為、後ほど来ると告げ、椅子に座り、他の人々には背を向け Ilse にのみ話す。Ruth, Ilse, Herbert に関わる話と推定される。Ilse は Herbert の不倫の疑いに言及し、Änne に同意を求めるが、彼女は与せず二人の姿勢に触れる。しかし、Ilse はどれ程以前から Herbert から離れようとしたかと言う事、89 年以前に弁護士と相談したが、それができなかった理由等々を彼女に訴える。続けて Ilse は女性の自立の問題に触れ、今は自由な社会に住んでいる事は明らかだが、不自由な社会では自由な恋愛まで如何に遠かったか男達に説明するのは困難であると述べる。しかし純粋な同僚同士の関係もあると彼女は云い、Herbert が彼女との仲を疑っているハンブルクの同僚に言及し、彼から明日雑誌に掲載され、それについて Kormoran に話さざるを得ないと考え、驚くべき情報を手に入れたと語る。Kormoran は愛すべき人物で、彼女をただ見つめようとするし、彼女に自然らしさ、東側風なものを求めると云っているといささか彼を誉めすぎ、Änne の溜息を誘う。しかし此処でもその情報はまだ開示されない。気がかりな話を先へ持ち越すのも Kant の手法である。

## (VI)

しかし二人の話の内容を評釈しようとする Herbert の意図に気付いて Kormoran が Ilse にテラスの入口の締め付けてあったベルを直すように懇願し、彼女も椅子の台に乗るのを面白がり、台の上に立ちベルを解き放った。

しかしそのまま台の上に立ち、自然にまた職業柄、そこに隠されていた紙片を広げ、難しい文字を後ろ姿で読んでいるのがわかった。彼女の後ろ姿と仕草が男達目を引くのを気にする夫に促されても、すぐに台から降りようとしないう彼女が Kormoran に向かってその広がった数枚の紙を振り、どの様にして人は批評家として彼ほど知名度を上げられたのかと叫んだ。恐らく彼の文字によって説明されているが、それは知的な見解を推測せざるを得ないほど解説不能で、既にここ標題の直後から読みやすい様にと云う意思が彼には見られないと述べ、標題はノアの箱船ならぬ「Kormoran の箱船(避難場所)」だが、「読み辛い文字はバビロン風になっている。」<sup>24)</sup>とも叫んだ。彼が「こちらへ渡せ!」と叫び返したので彼女は台より降り、彼は「君の云う通りならば!」と云い、その何枚かの紙に目をやり、彼女の手に貪欲にキスをしながら「天分と云う点で君は今日は勝っている。」<sup>25)</sup>と語る。その紙片を手に入れた Kormoran は「私が口頭及び著作による控えめな言葉の商売、私のささやかな仕事を始めた灰色でかつ代わる代わる多彩な時代以前のあの日以来、私を全く厚かましい願望が苦しめてきた。私は—今大きな暗雲が立ち込めているが—何かより多い平和を求めて協力しようとして来た。」<sup>26)</sup>と述べる。「代わる代わる多彩な時代」とは肯定的な時代の DDR と思えるし、「厚かましい願望」とは肯定的な DDR と云うより社会主義への願望とも取れよう。旧 DDR に対する Kant の感慨であろうが、大きな暗雲とは統一後のドイツの状況であろうか。

それに対し、たとえ一定の平和的傾向が見渡されていなかったにしても、Grit は彼の意見に同意し、元大臣の夫に記録する様に云ったので、Kormoran は Horst の例のメモ帳には、BRD のハンプルクで出版されているトロツキー的「コンクレート」(„Konkret“)紙への彼の寄稿にとりわけ表れている様な同志 K. の平和的傾向と、書かれているのかと尋ねた。故に Anne が Felix Hassel 医師が此処に居たら平和的とトロツキー的と云う言葉を問題にするだろうと云い、それに応えて Kormoran も政治家達の墓石に使用されているスローガンについて単純ではいられなかったと述べる。続けて Anne は平和的トロツキーに就いての混乱に言及するが、Kormoran に皆に例の紙片を説明

するように促す。

彼はその説明の手掛かりは既に提供してきた。つまり如何にあらゆる平和があつと云う間に駄目になったか、駄目になるかうんざりしたと述べ、次のように語る。「執筆を計画してきた私の叢書の内一冊を計画し、そこに私は平和に関する提案で嘗てなされてきた事を出来る限り揃えて収集しようとした。狂気のイデー、即座に挫折したイデー、なお相変わらず実証されていないイデー、すぐに嘲笑されたイデー——どれでも全て私の本に収集される筈であった。しかし残念ながら私にしばしば起こる様に、収録と追跡に就いて私は或るまたは別の独自の思いつきに至った。それを私は重点に於いてメモし、完成するべく記入した。しかし残念ながら私によりはるかにしばしば起こる様に、私が数週間後によく見ようとしたら、それはもはやなかった。」<sup>27)</sup>

探し求めて家中ひっくりかえした紙片が出て来たのであり、彼はどうしてそこにあったのか、彼が書いた事がまだ納得させるのに足るものか自問する。最高に価値があると思った夢を見た後の朝の様であつたらどうなるのかと彼は云い、すぐに戻る事、ほんの少し調べてみると語り、紙片を捲り読みながらテラスを去り、階段を庭へ下り、椅子に腰掛け読み耽る。しかし客を忘れて席を離れた事で、皆にとやかく言われ、彼は原稿をたたみ、またテラスに戻り、「最初の一瞥によれば、私のメモは全くもって的是はずれでないと思う。相対的な調和——それが実現可能ならば!もちろん私がそう呼んでいる合意に基づく権力の行使の元でのみなら。」<sup>28)</sup>と云い、その調和の内容に触れ、所有欲とエゴイズムに基づく構想は否定する。彼はそのプロジェクトは彼の仕事のリストに上がると云い、数日中に仕上げると述べる。Änne は数日中と云う言葉を疑うが、「書く事は根底に於いて読む事より遙かに無思慮な事です。書く時は人は起草し、読む時は吟味します。読む事は既に考慮する事です。書く事は云う事で、読む事は聞く事です。」<sup>29)</sup>と、過去の自己のメモを読んで再確認した Kormoran の結論に他の者共々耳を傾ける。彼はその結論を古いメモから得た事を乾杯の辞で述べ、Ilse に感謝の乾杯をし、他の者達も彼等相応の乾杯をする。Birchel 婦人が待っているのにコードレスの受話器が鳴らない事を指摘し、何人かが同



調し、副大臣 Horst は中佐 Herbert が電話機を水道管に繋いだからで、彼の腕が鈍っているせいだと皮肉を云い、Grit も同意し、誰もが Ilse の幸運に与ったわけではないとやはり皮肉を云った時、解き放たれた例のベルと共に受話器が鳴る。故に Horst Henkler は Schluziak 夫妻に腕は鈍っていない事を示唆し、それぞれが彼等相応の仕草をして、電話と叫ぶ。Herbert の手助けで Kormoran は受話器を取る。

電話は Felix Hassel からであり、彼は Kormoran の誕生日に、その日の電報に重ねてお祝いを云い、二つの人工弁の二と云う数字に因んで二度の方が良いし、君は二度目を今必要とすると述べ、とくにそちらへ行くつもりだった、ともかく或る事が生じたと語り、そちらへ行くまでは、誰かが電話をかけて来てても人工弁の事で慌てるなど忠告する。Änne や Ilse やそこに居る者達は夏の田園風景の中でそれぞれの思いと仕草でその電話の声に耳を傾ける。一方 Kormoran は東側のジャーナリストとして、西側のジャーナリズムを製作し、追いかける者の思慮と追いかけられる者の疑心を学んでいたし、他人の著作を批判する特性を持ち、周囲の状況を判断し、死を予感し、生を見ていた人間なので即物的に心臓弁がどうしたのか問い、製造者が一部の機器に故障を認めた事を知る。Hassel はすぐ行くのでレポーターを近づけると云い、その率は両方で 28% になると答える。それは最低の数値で、三分の一になり得るし、機器が安全な三分の二の方に属すると云う保証もないのである。そこに居た一同は反応を示そうとせず、Kormoran は受話器を例のメモ「Kormoran の箱船」の上に置き、荒れた庭に降りる。Änne は彼が仰々しく庭の椅子に座るのを眺め、彼はその視線を受け、半ば Hassel の声真似で「そう、或る事が生じた!」と云い、体を思い切り伸ばし、ズボンのポケットに拳を突っ込む。Kant の此の作品の長い一部は此处で終わる。

## (VII)

第二部で Kant は最初に此の作品が劇作であつたら「幕」が入る所だが、劇作ではないので演劇が計算に入れる外的な強制には縛られないと書き、更に幕



間の観客と小説の章や部が終わった後の読者の相違に触れる。また劇作家と散文作家の描き方、それへの観客と読者の接し方の相違にも言及する。劇作家は話し手の名称に拘り、観客は俳優の声の大小や身振りに注意するが、散文作家は主役達の心身の状態に就いて絶えず報告せねばならないと述べる。私はそれを更に続ける事を心得ていると Kant は語り、最初は Kormoran の六十六歳の誕生日に関わる物語を上演用脚本にしようとしたが、それが出来ないので、叙述形式の草案になったと述べる。事態が捗らなかったのは彼が劇作家でないからだと言ひ、維持可能な物は維持しようとしたが、全体的欠陥に対する半ばの修正は役立たぬ事を知り、戯曲の対話を取り入れ、読者に果たす義務があった物をそれに付け加えたとも記す。例えば口論を乗り越えてそれが大声でか静かにかでとか、人物の仕草とかを伝えたが、演出家の為にそうしたのではなく、散文の為なので、力点と手段は全く違って配分されたと述べる。Kant は続けて、彼の挫折に就いて気を紛らわせる為に、両者に於ける技術の規則に縛られる事が少なければ、多分より容易に或る芸術から別の芸術に飛び込めると、自らに言い聞かせたと書き、これから作品を先へ進めるが、冷静に進めれば進める程、此の物語を自伝風にする事は一層不可能になると述べる。

此処で章に当たる部分が変わる。快適であった初夏の、雑談が花を咲かせていた集まりは Kormoran が電話で受けた所見の恐るべき知らせによって沈黙の場になり、その場の各人物達の当惑した仕草が示される。夫の性格を知る Anne も振る舞う術を知らず、椅子をテラスの端に置き夫に呼び掛け様とするが、他の人々に視線を送り、思い止まり庭へ降り、庭の椅子を Kormoran の傍に置くが、座らずに彼の反応を待つ。彼は沈思から現実に戻った事を目で見せたので、彼女は、彼はなお生きたのに、死を待ちながら時間を無駄に費やしたと云う考えが彼を十年または八年間愕然とさせたらどうなるのか、客達は寄り付かず庭も妻も干からび、世界はその間、未知のものとなり、彼も世界にとってではや周知でなくなったらどうするのかと軽く問う。更に、彼の文字にしていない考え、つまり、多くの計画や一連の着想があると述べ、彼の傍に座り、仕上げを待っているその様な全ての構想を此の十年間死に瀕していたので、

完成する時間がもはやないと考えているのかと他の者には聞こえない声で云い、戯画的なスケッチも含めて具体的にそれ等の構想のタイトルを挙げる。Kormoran は彼女が彼と彼の仕事を知り尽くしている事を望んでいたと応え、それ等はしかし始めた仕事で計画中の仕事は全く別で、『此の時代の決まり文句より』と出来たら名付けたい連載で、私は言葉には流行語を用いたい。例を挙げようか？」<sup>30)</sup> と彼女との対話への誘いに乗ったのである。

彼女はお好きな様にと云いながらも、彼女が思い当たる流行語を挙げ、彼はそれに賛同するが、その月並みな言葉を新しく関連づけたい、例えばペアの文章の中でと述べ、例も挙げる。私は誰も出来る事をするのだと彼は云いながら、かなり後から、もちろん誰も出来るわけではないと述べ、彼女の場合にはそれが出来ると語り、彼女の援助を求め、彼女が彼に就いても彼の仕事に就いても心得ているのは素晴らしいと云う。続いて相互の仕事に就いての会話があり、心臓の人工弁の問題に関して何時彼女が知ったのかを巡って更に会話は進展する。彼女がテラスに残された仲間に彼の注意を促し、気を取り直した彼は椅子から立ち上がり、俳優 Peter Ustinov が嘗て彼に手紙で書いてきた言葉を引用したりして彼等に呼び掛け、Felix Hassel との電話の内容に彼等を引き込んだ事を反省し、なお長時間留まる様に要請する。作者に重なる人物 Kormoran が Hassel からの電話以来落ち込んだ此の第一部から第二部にかけての場面は正に典型的に「——私は実際には好ましく、肝の小さい事を証明する為にも私は „Kormoran“ という小説を書いたのだ。」<sup>31)</sup> という扉の前頁での作者 Kant の言葉に当て嵌まる。

Kormoran は隣人の Bilchel 婦人にも留まる様に声をかけテラスへ戻り始める。しかしコードレス電話が彼を落ち込ませる原因になったと考え、沈黙している Ilse に彼女の豪華な贈り物に就いて考えているのかと問い、コードレスの電話よりコニャックの方が贈り物として良かったとの彼女の回答を得る。此处から適度の問題が話題になり、彼は適度なら何でも許されると述べ、生命の変化を賛美出来るし、自分自身を非難出来るし、放心状態になれるし、人工弁の 28 パーセントの危険率に対し 72 パーセントの長生きを計算出来ると語

る。Kant の話題転換の見事さである。ベランダに戻った Kormoran は電話の事を気にする Ilse や他の客達に食事を勧め、なお心臓の事や生命の変化を話題にする者は食事を貰えないと述べ、立ち上がる。しかし彼を小心な男から偉大な人間に戻そうと試みる Herbert Henkler は例のメモ帳を机より手に取り、本気でそう思うのかと問いかける。ベランダのドアの所へ行きかけた Kormoran は疑念と言うより攻撃とも思える此の問いを待っていたかの様に振り返り、例の紙片を手に取り、むっとした気持ちを抑えて適度の嘲笑を込めて「他の言い方では君の様な人々を笑わせられないからね。」と答え、人工弁手術に関係づけて価値の保管や、補償措置や、契約相互の弱点と言う調整の構想は「君に多分気に入らず」「君の人生路線に反するのだろうか?」<sup>32)</sup> と述べる。それを認めた Herbert に対し、その事に就いては時間のある時話し合おうと言い、改めて飲食を勧め、家の中に入ろうとした時、隣の Bilchel 婦人が新しい電話機を貸してくれと申し出、その厚かましさに対する各人の反応が示されるが、Kormoran は拒否するわけにも行かず、逃げる様に家の中に入り、誰か携帯用電話を渡してくれないかと頼む。誰もそうしようとしないので、Schluziak 旧副大臣がそれを引き受け、まるで管理されている境界を越えるかの様に階段を下りる。

Ilse Henkler は Kormoran の気持ちを瞬間的にでも恐ろしい出来事からそらした Herbert を誉め、その様な繊細さを何処で身につけたのかと揶揄し、二人の応答があり、一方 Grit Schluziak は上記の二人の対話を聞き、何故人々は結婚をするのかと考え、Bilchel 婦人に電話機を渡す際の夫の言葉に彼女の全ての注意を向ける。その様な経験に乏しい元大臣は映画で見た執事の様な姿勢を装い、受話器を渡し、Birchel 婦人もその様な姿勢で応えるが、前者は受話器を渡した後もそこから去らず、それ程親密な内容でなければ私は電話が終わるのを待ち、受話器をその所有者にすぐに返しますと牽制する。「彼は歴史的には直前まで、管理しながらまだ社会主義的理念の先頭を歩んでいたにも関わらず、彼は所有者と言う表現にとりわけ強い表現の響きを与える術を心得ていた。」<sup>33)</sup> と Kant は社会主義的社会から資本主義的社会への転換の早さを皮肉

を込めて語る。

Birchel 婦人はしかし全く意に介せず、親密ではないが、時間が掛かると述べ、長いこと姪と話していないと言い、十三桁の番号を撰んだので、東京へかと尋ねると、ケンブリッジだと彼女は答え、応答がない事を告げる。Horst Schluziak は 1990 年以来住んでいた統一ドイツでは職務上知る事は希になったが、Birchel 婦人の様な人物像にはしばしば巡り会っており、此処で始めて詩人、画家、話術家として彼女の過去の行状が明らかになる。それを知る故に彼は彼女に電話料金が高くなる事を告げ、彼女の再度の電話が繋がらなかった時、相手に繋がった場合は料金が Kormoran の負担となると忠告する。しかし電話交換手を経ずに、しかも届け済みでないコードレス電話機を用いての通話に費用がかかると思わない彼女は更に通話を試みようとし、彼女の機器に対する無知を巡っての Schluziak、Henkler、彼女の言動の描写が続く。彼女は受話器を返し、Schluziak の手に戻った時、受話器が鳴り、ベランダ入り口上方の連動する例のベルも鳴る。Unbereit という名の女性からの急ぎの電話はすぐに切れ、Schluziak が要件を伝える事になり、ベランダへの階段の途中より、Änne が名を聞いただけで断ろうとしたその内容を報告する。そこへ切った肉を盆に載せた Kormoran が戻り、電話が鳴らなかったか尋ねる。Schluziak は報告する前に伝えたい事があると述べ、思わざる瞬間に或る用心深い同胞が電話で彼を捕らえ、大急ぎで理解しがたい知らせを浴びせると語り、Unbereit なる婦人が Kormoran とでもなく Änne とでもなく Felix Hassel と Aufderstell 氏の事で話したが、その男がこちらへ急いでいると告げ、彼は Kormoran の為にこちらへ来ると主張するが、Hassel の為か、人工弁の為か、または固定観念の為か良く判らないと言い電話を切ったと答える。用意の出来ていない、心構えが出来ていないという意味のあるドイツ語の unbereit なる名と、その場で、即座にと言う意味の Auf der Stelle というドイツ語の名に Kant は風刺を込めているのかと考えたくなる。Kormoran は彼が野菜類を描える迄、それ以上その事は話さぬ様に云い、野菜を取りに行き、Änne が Unbereit 婦人は病院の秘書で、Aufderstell 氏は事務長であると説明する。

その上彼女は Grit が余り聞きたくはなかった言葉、商売上二人を知っているだろうと言い、Grit は認めながら彼等に余り執着はないと答え、夫にもう予定をオーバーしているので帰ろうと促すが、Horst Schluziak は Felix Hassel が来る事、Kormoran の料理を口実にそれに応じず、それ以外に Herbert Henkler が序でに言った、87年に我々はもうすんでのところで終わりだったと言う言を理由に留まろうとする。その後、その言葉を巡って Herbert と Horst, 更に Grit との間に Aufderstell 氏を巡ってやりとりがあるが、料理の芸術家を自認する Kormoran が野菜を運んで来てその場は治まる。自分はコックではあるが、給仕ではないと宣言した Kormoran に代わり Änne が給仕を買って出るが、その際、彼女は Herbert がすんでのところで国家評議会議長（筆者注: Honecker の事）の市民権を剥奪するところだった時、どうだったのかは、既に一二度、彼女に説明されたと述べ、Birchel 婦人へ料理を運び、良い食欲をと述べてから、庭の道を来るヨブの使者（凶報の使者）Felix Hassel を見て出迎えに行った。

### (VIII)

テラスでは皆、食事に関心になり熱心に手を伸ばしながら、元副大臣 Schluziak は Änne が不在の間に元中佐 Herbert に、市民権が剥奪される議長とどう関わり合ったのか話す様に要請し、皆の注目を浴びて Herbert が話し始める。彼はその件に於いて、或る任務を運び、その協力者になった事、つまり 1987 年 9 月、議長が公式訪問で最初にボンへ向かった時の事である。彼等から見て、またモスクワから見て議長は東ドイツに留まるべきであったが、議長は出かけ、ライン河畔で「カヌーの準備、カヌーの準備、ライン河を越え」と言うワンダーフォーゲルの歌を歌ったと言う。本来、彼等は狡猾な相手と関わり合ってきたので、彼はゲストハウスでも計算に入れざるを得ない嫌な連中の為に議長に付き従う筈であったが、彼の西への旅行は別の目的に変更された。防衛評議会グループによってである。彼は過去を回顧し、彼の上司が彼にテーブルスピーチ分析係を命じ、「君が不適切な言葉を述べた時、Herbert、判っているだ

ろう。」と言い、更に「彼が不適切な言葉を述べたら彼は西へ留まるべきだ!」と議長に就いても言ったと述べる。彼の話し途中、彼の昇進に関わり合っていたのであらうとからかった Schluziak ですら信じられない様に見つめ、「君達はそんな事を彼にしようとしたのか?君達は彼を再び入国させまいとしたのか? 君達はそんな事をあえてしようとしたのだろうか?」とどもり、Henkler は認めるが、皆は彼自身も真には信じられなかった事を彼の表情に見て取る。しかし彼は続けて「私達は徹頭徹尾そうしようとしただろうし、歴史上で見れば、まだ生ぬるかった。」<sup>34)</sup> と答え、Kormoran が嘗てエジプト大統領の事で仄めかした、1981年10月の軍事パレード閲兵中のサーダート暗殺を引き合いに出す。彼の上司は議長暗殺も仄めかしたのである。彼はビールを飲んで更に話を続ける。議長のボディガードが議長の例の歌に就いて報告した時、上司は突然「カヌーの準備、カヌーの準備、ナイル河を越え」と歌ったが、彼以外誰もその意味する所を理解出来ず、彼と二人きりになった時、上司は人差し指で彼の胸骨を叩き、簡単明瞭に説明した。「彼奴はお喋りするだけだ! 彼奴はもう長いこと不安定な要因だ。彼奴がザール河の所で党の方針に留まらなければ、彼は再び戻れない。モデルはあるのだ。お前だけが知っている歌手への天罰一だ。彼奴がばかな事を語れば、歌手への天罰二が下るのだ。」<sup>35)</sup> このナイル河とサーダートの暗殺、ライン河と Honecker の市民権剥奪計画に関連づけての上司の言葉は興味深い。1987年9月の Honecker ボン訪問時にこの様な事実があったかどうかは現在確認されているのかどうか私は知らない。あくまで虚構の中の話である。しかし彼の失脚二年前の事であり、その可能性は充分にあり得ただろう。

Herbert Henkler の妻 Ilse はこの事実をストーリーにしようとしたが、夫に禁止されたと言い、此処でテラスの上下での論争めいた会話が進展し、Kormoran はその様な事実を知らなかったが、それに興味を示し、議長のテーブルスピーチを分析したのか Herbert に尋ね、国家がその議長の市民権剥奪をする時代になったと言い、それを政治局の最大化と呼ぶが、此の言葉は非常に重要な問題への関わりから気をそらす為であった。しかし、議長のスピーチ



から話題をそらさない為に、彼は Herbert に君は検閲官と見なされなかった様に見える。議長はある日再び居たのだし、武器で国境を破ったと言う話も読まなかったからと述べる。此の辺りにも Kormoran の口を借りた Kant の風刺が見られる。Kormoran の此の言葉に対し、Herbert は彼の分析が何処に行ってしまったのか知らないが、分析の手掛かりは充分にあったと言い、忌まわしいスピーチとして、ドイツ全体が突然、あらゆる平和的な二度と戦争をするなどと言う響きで満ちたと応じ、議長が往きには闘いの為にとくどくと喋っていたのに、誰が平和に就いてより明るく歌う事が出来るのかと言う宴会の席での争いになったと語り、結局、彼等はザールラント人と関わり合う事になったと言う。

Kormoran は Herbert 達がその方針を貫いたらどうなったか何時か描いてみたいと述べ、何故方針を貫かったのか尋ねると、ロシヤ人達が議長は知りすぎていたので、帰国を望んだと語る。Kormoran は一方では Herbert が Ilse に事実をストーリー化させなかったのは正しかったと述べるが、他方では彼等の議長を叱責とギターで語るカリカチュアが無くなるから残念だと述べる。Ilse はそれに対し発言しようとしたが、Felix Hassel と Änne が近づいて来たし、Kormoran が話題を転じ、Herbert に「ロシヤ人達と言うのか？ 皆か？ 或いはとりわけ、その功績を我々が既に抹消したあの指導者の事か？」<sup>36)</sup>とゴルバチョフを示唆したので、発言を控えた。此の言葉と、それに対するあからさまな憤懣を込めた Herbert の肯定と、ゴルバチョフの言葉を自分に分析させるべきだった、そうしたら彼は今やせいぜい「素晴らしきバイカル湖」の歌を歌い出すぐらいだろうと言い、「素晴らしきバイカル湖、汝、聖なる海、ゴミ容器の上で私は汝に強いのだ！」<sup>37)</sup>と歌う Herbert の姿勢に、東西ドイツ統一後の東ドイツ知識人のゴルバチョフへの否定的評価と議長を更迭する事によって東ドイツの存続を願った願望が描かれていると言えよう。此処にも Kant が『文学カルテット』誌によって危険視された理由があろう。<sup>38)</sup>

此のバイカル湖の歌に Schluziak 夫妻と Birchel 婦人が唱和しようとしたのを防ぐ為に、Kormoran は手を口の前に当て、「元中佐一派がその方針を貫



かなかったのは彼、つまり私達の議長にとって本来、気の毒であった。さもなければ我々の全員のテーブルスピーチ家は今日、強制的亡命先から戻って来たら、損害賠償と彼の財産の返却を請求出来るだろう。』<sup>39)</sup> と言う。これも元国家元首に対する強烈な皮肉であり、また嘗ての西への亡命者達の統一後の東ドイツに対する要求への批判でもある。損害賠償とか幾つかの言葉が Änne によって禁じられていた事を彼女の聞こえない所で Kormoran が口にした事から Grit Schluziak, Ilse, Herbert の間で話が進展し、言葉を禁ずる事は精神的損傷に至ると言う話になり、人をうんざりさせる事を巡って Birchel 婦人も話に加わり、会話は現在の歴史に関わるものから現在の一般的话题に転換する。Kant のいつもの手法である。

すぐに彼等の意見は一致したと言う表現で、もはや聞くこともない統一後流行の言葉が挙げられる。信託会社(筆者注: 統一後、東側の資産を買いたった西側の会社)、ロストックの牧師、通りの改名、首都移転論争、ABM、定年前退職、受け止めるべき衝撃、社会的折り合い、年金、改悛、改革、進展、巻き添え、除外、西側の連邦州、旧東側の州、不法な国家(筆者注: 旧東ドイツ)、保険金の支払われない日。更に彼等の意見がすぐに一致した事は、新しい情愛の籠もった語彙が彼等を労っていると称する話であり、その例として、Wessi, Ossi, Dissi, Assi, Knacki, Gorbi, Honi, Stasi が挙げられる。しかし、庇護権に関して人々は彼等に対し沈黙せざるを得ず、アカデミーに就いても、アスベストと建築物取り壊しに就いても全くそうであると。或いは所有を意味する、私の弁護士、私の株、私の税理士、私の解約告知と言う様な一連の言葉に就いても同様であると言う事である。またすぐに彼等の意見が一致した事は、国内と言う言葉に対し国際と言う言葉が使用され、より悪化した仕事に就いて聞き、交易は進歩とはまず言えない事である。何れにせよ進歩はなく、児童労働が復活し、初夜権は恐らくまだとは言え、Frau Professor (女性の教授)はその元の意味、教授夫人に戻り、全ての女性達は再び炊事に従事する事になる。更にすぐに彼等の意見が一致した事は、古里の道が今や私道と言われ、地球はますます頻繁に国連軍を必要とし、Atlas (地図帳)と言う言葉がますます Altlast

(古い重荷)の様に読まれた事は彼等を楽しませなかったと言う事である。社会主義国東ドイツの資本主義国西ドイツへの併合、世界的な社会主義崩壊に伴う様々な弊害が皮肉を込めた強烈な言葉で語られていると言える。

しかし彼等は長い思考の後にすら元大臣が口にした「敗れた事はまだ敗れた俣である事ではない！」と言うスローガンに一致出来なかった。それは思い違いだと Kormoran は言い、他の者達は考えているみたいに沈黙していた。Ilse Henkler は躊躇っている様に見えた。彼女は敗れたとは思っていなかった。彼女の勤めている雑誌社 Depesche (筆者注: 電報、至急便の意)の事では若干そう思っていたが。しかし彼女は義兄の誕生日に彼と争おうとは思わず、Depesche の事で言えば私達はそう言えると述べた。東ドイツの事実上の西ドイツへの併合を敗北と見るかどうかのそれぞれの感慨と言えよう。Ilse はそこで社名が Neue Depesche に変わった雑誌社に於ける今週、使用禁止の Unwort (言語と言えないもの)に就いて述べる。それは unkaputtbar (毀れ難い)と言う言葉で、毀れ難い関係とか、毀れ難い愛とか、毀れ難いドイツとか、毀れ難いドイツ語と言う造語であると述べる。Kormoran はすぐに反応し、毀れ難いとは楽しいと言い、言語上の意図を持った宣伝用ギャグだと述べ、そのひな型に従って多数のあり得ない言葉を作れると語り、毀れ難いドイツとは素晴らしく、ぴったりで、今週の言語と言えないものではなく、時代の言語だと言う。彼は此处でそのいかれた言葉への関心を毀れ易いと言われた彼の心臓人工弁に結びつける。しかもそこには既に医者 of Felix Hassel が到着しており彼の妻 Anne と話していた。

Herbert Henkler は Kormoran の陽動作戦に同調し、表現禁止に関しては最有力候補があると言い、御機嫌いかが (Wie gehts?) と言う問いで、それを正規に自分に禁止していると述べる。そしてそれへの応えは唯一の言語と言えないもののカタログの様に聞こえるが、失業の (arbeitslos) と言う様な A から、手に入らない追加年金 (Zusatzrente) と言う Z に至る迄、機嫌は良いですと言えない様な全てが提供されていると語る。統一後のドイツへの痛烈な皮肉である。

## (IX)

Herbert Henkler の話にうなずいていた Grit Schluziak は彼女が嘗て貿易商として西側より輸入した商品に対する西側指導者の禁制品への疑いと返還要求に就いて心配し、Ilse がその懸念をからかうが、Kormoran は争いの広がるのを避ける為に、西側指導者が返還要求するのは不法な国家による締め出しでその指導を妨げられていたその国民であり、君や君達、彼や貴方や、私や我々の返還であり、その戦友達の返還であり、統一協定による損害賠償であり、指導的役割の回復であると述べる。此处にも H.Kant の皮肉を込めた西側批判が読み取れる。不法な国家とは言うまでもなく、旧 DDR、東ドイツの事であり、その国民は旧東ドイツ国民である。

しかし Kormoran の言葉も Grit を不安にすると考えた Herbert は更に発言し、彼女を安心させ彼女の強気の発言を引き出す。彼は更に彼女を第一次世界大戦中の伝説的な封鎖破りの艦長 Felix Graf Luckner に喩えたのである。その時まさに同名の医師 Felix Hassel と Änne Kormoran が庭の道に現れたからである。Hassel 教授はこれに応え、そう Felix だよと階段の足下から叫び、それとなく皆に会釈をし、Kormoran に向かい、話しかける。Kormoran は待つのも関係のない無駄話も今や終わりだと確信する。Hassel は彼に誕生日の贈り物として、『資本主義の不可避性』と言うサブタイトルのある『生態学』と言う英語の分厚い本を贈り、彼は感激して喜ぶ。彼は自分を教化する為にその本を読むと言い、その感謝の気持ちを述べる。此处で此の本のタイトルを巡って Grit、Änne、Ilse の間で話が進展するが、彼女等は現実を見るとその不愉快なタイトルに同意せざるを得ないのである。彼女等の間で非難の応酬に迄至ったのは、社会主義の不可避性の為に努力しなかった相互の姿勢に対してである。

論争を聞いていた Felix Hassel は、あからさまな論調の日なのかと Kormoran に聞き、後者はあからさまな心の日だと答え、前者が家の中、または庭に行く事を提案したのを断り、携帯電話により皆が心臓人工弁の危険性を知っているのを、テラスに留まり、危険性の結果を知りたいと言う。彼は答え

を待たず、Hassel の方に再び向き、自分で嵌めたさるぐつわで窒息する様な呪われた秘密主義は嫌だと言い、一人工弁あたり 14 パーセントの死亡率故、彼の場合は 28 パーセントだと述べ、自分の場合は率を低く見て欲しいと言う。Hassel は Kormoran の加算法はともかく、医者 of 沈黙の義務を主張し、Kormoran は元国家防衛評議会中佐 Herbert Henkler に秘密主義攻撃は彼の職業に向けられたのではなく、手術の麻酔の後に Kormoran が喋ったであろう事を知らせなかった医者の秘密に対してであると語る。それに対し Hassel は人が分別を失っていた時に口にした事を知るのは、その人の為にならないからと応じる。その上彼は、生への期待が劇的な衝撃によって減少した時、それを生の質の悪化言えるのだろうか一般的な問いをしてから、72 パーセントの生存率も認める。Kormoran は信ずる事は彼の強さではないと言いながら、数年前から此の心臓の器具なしには人生をやって行けなかっただろうと述べる。彼がテキサス製の器具と言ったのに対し、Grit がオハイオ製と訂正した事から、彼はその様な事はどうでも良いが、彼の心臓の器具は彼女等が輸入禁止を破って手に入れた物で、彼はそのお陰なのかと尋ねる。その可能性もあると彼女は答えるが、何処からどの品物が来たか今はもはや思い出せないと応じる。しかしそうだとしたら彼女に密輸された二年間を感謝すると彼は言う。そこで隣人の Birchel 婦人は余計な口を挟み、非難の視線を浴びるが、突然「今や赤色戦線兵士団の到来だ!」と告げたのである。一方 Herbert Henkler はテラスの手すり越しに眺めて「お一名誉ある編隊と共に!」<sup>40)</sup>と呟き、古い情報関係の戦闘的言葉が自分の内部に存在するのを示したのである。

他の人々はまだ見てはいなかったがシャルマイとギターと太鼓の音、皆知っているメロディー、彼女は今日行進用のブーツを履いていたのかを、聞いたのであり、そして、ソビエトの先唱者風の明るい声で歌われている方言の歌を聞いた。今や皆、テラスの縁に集まり三人の中年の女性と一人の中年男性で構成された行進を見た。拍手の中、テラスの階段を上り Kormoran の前に整列した彼等は誕生日のお祝いを言い、此の地域、つまりシュレースヴィヒ・ホルシュタイン地方の農業労働者の歌を歌った。此の流浪の左翼 (Heimat-lose

Linke) と名乗る楽団は更に歌詞を変えて、Kormoran の心臓人工弁に触れ、例の信託会社批判もする。Kormoran はしかし更にその輪唱が続く前に、心から感謝の念を述べ、彼等と握手をし、元の歌を知っているので、膨大な残りの歌は晩に歌ってくれと提案する。その理由として彼は Grit がオハイオへ旅立つ前に話し合う必要を述べ、Horst Schluziak も Anne Kormoran の事に触れて、その提案に肩入れをし、彼等に飲食するよう勧める。Herbert Henkler は彼等にタブーを無視して歌うならと、「牧師 Gauck は Stasi 文書を洗う、彼の牛がそれに糞をたれたから」と Stasi をもじった歌を提案する。その提案は彼等に気に入る、彼等は飲食し、陽気に歌い始める。

しかし Kormoran は前よりも幾らか大声で、幾らか鋭く歌を止める様に叫んだので、歌声は止む。彼は歌手の男性にもう一度手を振り、皆に感謝をする。それに対し Felix Hassel は Kormoran に対しほくそ笑み、素晴らしい歌の企画だと賞賛し、君の前に居るのが君にテキサス、いや、オハイオからの心臓のスベアを装備した彼のクリニック医療器補給部門の長 Aufderstell 氏だと語り、その医療器具を輸入した Grit を初めとして、その場に居た各人がそれに対して様々に反応する。Aufderstell は人工弁をオハイオ製だと思うと述べ、それは、Grit が居るので説明済みだろうと云い、Kormoran に彼が此処に来ているのは彼の職務の濫用だと語る。その言葉は Kormoran を捉え、Kormoran はある事を問い合わせたいと思うが、残りの人生に関わる事なので、彼は気を静め、Anne も Felix も重要な事だと言う印象を示さなかった。新しい客に向かって、告白しようとするのはおおかた責任のなさを超える事で、何が問題なのか尋ねる。Aufderstell 氏にとって、難しい話をする事は困難ではなかった。人民所有企業の時代には過度の望みと限られた可能性の間を彼は調停せざるを得なかったが、医療生活が他の事同様に自由になって以来、彼は個人の限りある支払能力と私的企業の限らない売り上げ意思の間で同じぐらい神経を磨り減らしていた。此処には社会主義体制の元で或る矛盾に悩んだ人間が、移行した資本主義体制の元で別の矛盾に悩まざるを得なかった事実が語られていて、非常に興味深い。その様なわけで、彼は状況が要求した様に、しなやか

に考え、語る、意気消沈した人間になっていた。彼は、Kormoran の誕生日と云う状況を考慮して開けっぴろげで手短に、クリニックの人間と紹介されたが、何よりも詩的な人間として来ていると話す。Kormoran は歓迎すると云い、二人の間に創作を巡る会話があり、Aufderstell は厳しい批評家としての Kormoran の評判を知り、今日の祝典のきっかけを知ってはいるが、或る考えをもう検討したいと語る。それに対し Kormoran は防御の姿勢を取りながら、受け入れようとし、Felix Hassel の方に視線を送り、その考えが技術者の技術上の人体への設備に関する場合は別だと述べ、心臓の純粋性を監視する或るチップを有り難い事に開発したのかと云う。彼の心境を理解した Anne は、彼が恐ろしい知らせの故に友人で専門家の Felix と話したがっている事を Aufderstell も判っているので、時期は良くないが二人で家の中または前の方の離れた所へ座り、話す様に進言する。Kormoran も二人だけでと云う提案に乗り、Felix との話を希望し、隣人の Birchel 婦人が派手な女性がやってくると叫んだ時、Anne は Felix を Kormoran の方へ軽く押しやり、早く消え失せなさい、派手な女性は緊急に聞きたいのではなく、待てるのだと云い、二人はその場を離れる。近づいて来たのは、Gerrelind Baumanova と云う派手な服装の世界的に評価されているが、業界や当局からはその仕事の故に賞賛され、その発言の故に好まれていないドキュメンタリーフィルムの女性カメラマンであった。

新しい人物の登場である。彼女はテラスの階段を駆け上がり、人々を抱き、「此の場所を、心の拠り所を彼等は貴方達から取り上げようとしているの？ 此の…」と語り、Anne が紅茶を勧める間、此の別荘地を更に「暗い地上のハレーション」と呼び、更に「ドイツ知性の閑静な地」と命名し、「そして此の桃源郷が今や占領者達の獲物になるの？」<sup>41)</sup>と云う。

東西ドイツ統一以前の旧西側住民達による旧所有地への返還要求を巡っての会話であり、占領者達と云う発言に旧東側住民達の複雑な感情、反発が反映している。

貴方達には利口な弁護士はいないのと彼女が云うと、いるけれどと Anne は



答えてから、私達は住居と弁護士の事は話さないと今日は賢明にも決め、同様に心臓をテーマにした話題も誰一人強行しないと話を転換し、この日始めて一瞬間、痛みと悲しみの影を顔に宿したのである。続けて Gerrelind の派手な服装に就いての話となり、彼女は東ドイツ時代の長い地味な服装の後に自分の本心を明らかにしたのだと云い、それに対し Ilse はそう呼びたくはない貴方の占領者達には貴方の服装は印象を与えたりはしない、彼等が貴方を東の人間だと知っていればともかくと語る。Baumanova はそこで鞆から原稿を取り出し、幾つかに分けて、皆に配り、それらが感銘を与えるだろうと云い、更に手の大きさ程の包みを取り出し、Kormoran の所在を尋ねる。その小包に就いての質問に対して彼女は Kormoran に就いて計画されたが実現せずに死蔵される事になったドキュメンタリーフィルムのカード目録だと語る。Herbert Henkler が、なんたる物を今日皆が此処へ持ってきたのかと述べたのに対し、Grit が元国家防衛評議会中佐の彼に Kormoran に関する書類は何も無いのかと皮肉を込めて尋ね、彼は否定する。話のその様な展開を望まなかった Baumanova は話題を転換し、Änne に Kormoran の状態の悲観的な場合を考えてカード目録を持って来たと弁明する。そこには彼の生に関するあらゆるデータがあると云う。その様な発言が気に入らない Änne は Felix と世界のあらゆる医者に思いついたあらゆる事をさせるし、必要と云われた場合には彼をシャーマンの所へも連れて行くと述べる。その発言に対し、その必要はないと Aufderstell は云い、他の者はそれぞれ当惑する。その様な行き詰まった事態を打開する為に、Baumanova はドキュメンタリーフィルムは駄目になったが、彼女のイデーはカードにあり、Kormoran が少なくとも読んで欲しいと云い、或るイデーは彼の許可と協力の下に実現したと述べ、カセットを取り出しカードの上に置き、それに対し Ilse があれほど大きなイデーが小さな包みの中にあると考えると！、とコメントする。

Baumanova がフィルムには Kormoran の自然及び人工心臓音を挿入するつもりだったのだと発言し、そこから話題は倫理的問題と臓器提供に発展し、Änne を初め、皆が例の原稿を手取る事になる。隣人の Birchel 婦人もそ



の原稿に関心を示すが、手に入れられず、彼女は庭の天幕の背後にいる Kormoran と Felix の話に耳をそばだてるが、聞き取れない。

二人は死について会話し、前者は時折忘れるが付きまとう非常な死の不安を訴えるのに対し、後者は今まで人工弁のお陰で生き延びてきた事を信ぜよと云うが、前者は人工弁の約束よりの短命を気にする。後者は人工弁の交換が不可能では無いと主張するが、前者は後者又は誰かが肋骨をのこぎりで切る今一度の手術の恐怖を思い、不可能だと考える。後者は明解であると同時に無理解な患者は珍しいと云う。前者は反論が軽はずみに見られたならば成功しなかったのだと認め、これ以上踏み込まないと断言し、なお看護婦の所に顔を出せるのかと心配する。その心配は否定するが、後者は Kormoran が統一後の新時代の政治的用語を使う限り、若い女性達は彼の事を殆ど理解しなかったであろうと Kormoran を牽制する。ソ連共産党史を学ばされてきた統一直後の東ドイツの若者の戸惑いを述べている。Kormoran が聖書にも精通した政治的用語を使ったからである。

Kormoran は Ruth (新しい登場人物)が来たら、今日の朗読を開始すると述べ、彼の自叙伝の最初と夢を語ると云い、常に心を開いて (offenherzig) 語るが、しかし二度と開かれた心(臓)の (am offenen Herzen) 手術は御免だ! と、言葉遊びをする。更に人工弁がアメリカ・オハイオ製であるのに託けて彼は偉大な鍛冶屋が望む限り Shiley 牧場の蹄の音が彼の中であると、Felix を鍛冶屋に喩え、Felix との(西部劇)最後の決闘はないと言葉遊びをする。西部劇が好きな H. Kant の台詞でもある。彼は自叙伝の名は「私の中より生まれる物を私の為にする。」<sup>42)</sup>と述べる。Felix は彼の言葉に反発するが、そこに残る事を決め、Kormoran はその場所を離れる時、十年或いは少なくとも八年生きる計画を語る。